

中域ディスクドッジ
首都圏東部大会 2017

EAST Metropolitan DISCDODGE Tournament 2017



<大会報告書>

2017年3月23日



日本ドッジビー協会

【大会概要】

- 名 称 中域ディスクドッチ首都圏東部大会 2017
 EAST Metropolitan DISCDODGE Tournament 2017
- 日 時 2017年(平成29年)3月12日(日曜日)9:00～17:30
- 場 所 東京武道館 〒120-0005 東京都足立区綾瀬3-20-1
 TEL:03-5697-2111
- 主 催 一般社団法人日本ドッチビー協会
- 共 催 足立区
- 後 援 公益社団法人 全国子ども会連合会
 足立区少年団体連合協議会
- 協 力 埼玉県／千葉県フライングディスク協会
- 協 賛 文化シャッター株式会社／ワタミ株式会社
 東京キリンビバレッジサービス株式会社／株式会社ヒーロー
- 表 彰 各部門 1位から3位まで

【お問い合わせ先】

日本ドッチビー協会事務局

住所 ： 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-46-302

Tel ： 03-3264-3626

Fax ： 03-3264-3627

mail ： support@dbja.jp

担当 ： 稲垣 敬雄

【参加チーム一覧】 人数

<小学生部門>		16チーム	
①	三日ハリケーン	荒川区立第三日暮里小学校(6年)	15
②	ウエストシックス	荒川区立尾久第六小学校(4/5/6年)	17
③	大乱闘中	荒川区立汐入東小学校(5年)	13
④	大乱闘中Ⅱ	荒川区立汐入東小学校(2/3/5年)	15
⑤	M. D. C	武蔵野市クラブチーム(2~6年)	18
⑥	国領フェニックス	調布市立国領小学校(2~6年)	16
⑦	国領破壊神	調布市立国領小学校(4/5年)	15
⑧	国領サンダー	調布市立国領小学校(2/3年)	17
⑨	サンダース	荒川区立第三日暮里小学校(5年)	13
⑩	NDCそげキング	足立区クラブチーム(5/6年)	13
⑪	NDC戦桃丸	足立区クラブチーム(2~5年)	16
⑫	尾久西ビクトリニーズ	荒川区立尾久西小学校(3~6年)	13
⑬	麴町ファイアーズ	千代田区立麴町小学校(2~6年)	18
⑭	番町小 空	千代田区立番町小学校(3/6年)	15
⑮	番町小 海	千代田区立番町小学校(1~3年)	24
⑯	柏野アクセルアローズ	調布市柏野小/狛江市立小(2~6年)	15

<中学/高校生部門>		6チーム	
⑰	Chinese Taipei ST.Ignatius High School TEAM A	中学/高校生	14
⑱	Chinese Taipei ST.Ignatius High School TEAM B	中学生	15
⑲	香港代表隊	黄楝珊紀念中學 中学/高校生	15
⑳	ウエストセブン	荒川区立第七中学校 1年	10
㉑	tea	お茶の水女子大附属中学校他 2年	10
㉒	東京選抜チーム	調布/狛江市 中学/高校生	12

<一般部門>		7チーム	
㉓	つつちBee!!	土浦市 クラブチーム 22~43才	11
㉔	M. D. C	武蔵野市 クラブチーム 14~50才	10
㉕	Battery	名古屋/神奈川/東京混成 クラブチーム 13~42才	11
㉖	NDCベックマン	足立区 クラブチーム 13~49才	12
㉗	TTV	北区 クラブチーム 11~32才	11
㉘	田園調布学園大学	大学生	9
㉙	香港代表隊 HKDA	香港代表チーム 18~33才	19

【大会参加者数 一覽】

●参加選手総数 412名

●大会関係者総数 44名

内訳 /主要スタッフ 11名

/協力スタッフ 27名

/来賓その他 6名

◆大会関与者総合計 456名

◆観戦・引率保護者数 約350名

大会関係来場者総合計 約800名

【大会最終順位】

『小学生部門』

優勝 大乱闘中

準優勝 サンダース

第三位 三日ハリケーン

『中学／高校生部門』

優勝 東京選抜チーム

準優勝 Chinese Taipei TEAM A

第三位 Chinese Taipei TEAM B

『一般部門』

優勝 Battery

準優勝 M. D. C

第三位 つっちBee！！

【大会ルール】

・日本ドッチビー協会公式ルールで実施。一部大会ルールを採用。

- 1) 試合の人数は小学生部門＝13名、中学／高校生・一般部門＝10名
- 2) 試合時間はすべて前／後半 各＝3分30秒
- 3) 同点の場合＝リーグ戦は引分け、トーナメント戦はPT戦で決着
- 4) 決勝戦のみ終了時、同点の場合＝3分1本通しの延長戦をおこなう。

【競技方法】

1) 小学年部門

- 予選 4チーム×4リーグにて予選リーグ戦。(引分けあり)
順位決定 予選リーグの順位1～2位の8チームならびに
3～4位の各8チームよるトーナメント戦をおこなう。

2) 中学／高校生部門

- 予選 3チーム×2リーグにて予選リーグ戦。(引分けあり)
順位決定 予選リーグの順位1～2位の4チームによるトーナメント戦ならびに
各3位の2チームは一般部門との混合トーナメント戦をおこなう。

3) 一般部門

- 予選 4チーム／3チーム×各リーグにて予選リーグ戦。(引分けあり)
順位決定 予選リーグの順位1～2位による決勝戦ならびに3～4位の
3チームは中学／高校生部門との混合トーナメント戦をおこなう。

【競技スケジュール】

全ての対戦結果は、別紙結果表をご参照ください。

※付帯イベントとしてドッチディスタンス記録会を参加チーム各1名を選抜しておこなう。

【参加賞】

協賛社様ご提供の参加賞 ※配布 ～ ①は受付時、②③は15時30分以降

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ① 東京キンビパレッジサービス(株) | 555mlスポーツドリンク |
| ② ワタミ(株) | 系列全店使用可能 500円お食事券 |
| ③ (株)ヒーロー | ドッチビーデザイン・リストバンド |

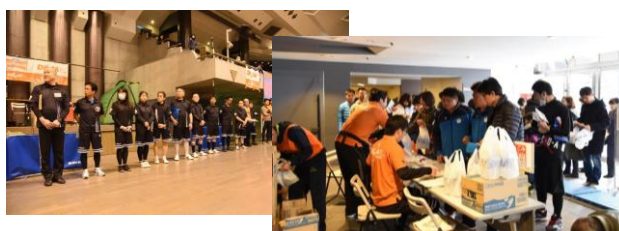
【講 評】

平成29年3月12日、日曜日、朝から春の日差しが温かく射す快晴の中、29チーム、約400名の選手、観戦保護者ならびにスタッフその他関係者なども含めた総合計で約800名が集い通算6回目となる中域ディスクドッジ首都圏東部大会が開催されました。



本大会はこの秋におこなったルール改定後、実質的に初の大型開催となる公式大会であることから審判員スタッフには事前(2月下旬)に勉強会をおこない万全の体制を敷いて臨んだ大会となりました。

受付開始の9時には続々と選手が集まり、参加賞として麒麟のスポーツドリンクが一人1本、配布されて、いよいよ大会は幕開け。



開会式での主催者挨拶として、大会でのいくつかある初となる事項を紹介！



① 東京都所有の施設である東京武道館、大武道場全面借り切っておこなう大会であること。将来は東京都の施設である東の東京武道館、西の駒沢体育館、そしていずれは千駄ヶ谷の東京体育館での開催を目指したいとの意向を表明させていただきました。

② 表彰副賞としてドッジビーロゴ・オリジナルメダル／ガラス盾／トロフィーを製作。今回は文化シャッター社のご協賛を頂戴しての贈呈が実現したこと。今後、各地域大会でも使用できるように検討中であり、今回はそのお披露目。





③ この大会に向けて、特別にオリジナル商品を製作のうえメーカー直売ショップが充実の品揃えで久々に
出店！！



④ 台湾と香港から計4チーム、約 80 名の遠征来日、参戦があり国際的な大会となったこと。
をそれぞれ、報告させていただきました。



続いて、本大会へ最初にお申込みを受付けたチーム、三日ハリケーン／荒川区より代表選手を選出していただき選手宣誓の後、協会より諸注意事項を説明して予定通り、開会式は終了。その後、全選手による記念撮影がおこなったが、400名超の集合写真はまさに圧巻！！

今回大会の運営上の特徴として、試合開場である大武道場と別に確保した第一小武道場を練習スペースとして、およびに1次招集場所として兼ねることで練習場の混雑回避と確実なチーム招集の両立を図った。これは非常にうまく機能したと考えています。



午前中の予選終了後、集計時間を有効利用した付帯イベント「ドッジディスタンス記録会」を実施。時間の都合で参加各チームより1名を選抜の上、試投いただくという狭き門になったが、5部門において日本記録の更新がありました。これは各チームが選抜の段階において相当、吟味いただいていた人選によるものと感じます。ありがとうございました。





15時30分過ぎより開始したスポンサー企業各社様よりご提供いただいた参加賞の配布を終えるころには、いよいよ各部門の3位決定および決勝戦がおこなわれました。各部門、レベルの高いゲームが繰り広げられていました。



小学生部門は上位入賞を荒川区のチームが独占！！



中学／高校生部門は日本VS台湾の国際ゲームとなり、見事、日本チームが勝利。

一般部門は愛知のチームが貫録の勝利。



特に一般部門の決勝トーナメント戦では4試合中、2試合がPT戦での決着となるなど実力が拮抗していることが、具体的に目に見える内容となっていたことがとても印象的でした。



大会全体を通じた反省として、武道館という会場の特性上、観客席も含め土足厳禁であるため、開場・入場時に靴の脱ぎ履きが必要であること、また、客席数は十分な数があることから控えスペースをフリーな状態としたこと、この二つの点から予想外のこととして、一部チームによる席の確保に走る光景が見られ、結果として大事には至らず、かつ朝一の一瞬だけではあったが危険性を感じることがあり、この点は主催者としては次回への大きな改善点として痛感しました。



なお、本大会運営において当協会の資格取得者の皆さんによる審判員としてのご助力、ならびに普段はゴールドタッチ大会に選手として出場している有志の皆さまにスタッフとして多大なるご協力を賜りました。当協会にとってこれらの皆さまの存在は非常に大きな財産であることを改めて強く認識することができたことを非常に嬉しく感じました。



最後に大きな事故なく本大会を終えることができましたことをすべての関係各位に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。